

BinanBijo

第一印象・身だしなみに関する意識調査

— ビジネスの現場で“見られる”リアルと、美容医療への男女・世代の意識差 —

対面業務に携わる全国20～60代の男女 272名

BinanBijo (binanbijo.jp) 調べ / ウェブコロール株式会社

2026年

調査概要

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 調査名 | 第一印象・身だしなみに関する意識調査 |
| 調査主体 | BinanBijo (binanbijo.jp) / ウェブコル株式会社 |
| 調査対象 | 対面での接客・営業・折衝がある全国20～60代の男女 |
| 有効回答数 | 272名 (男性143 / 女性127 / その他2) |
| 調査方法 | インターネットによるアンケート調査 |

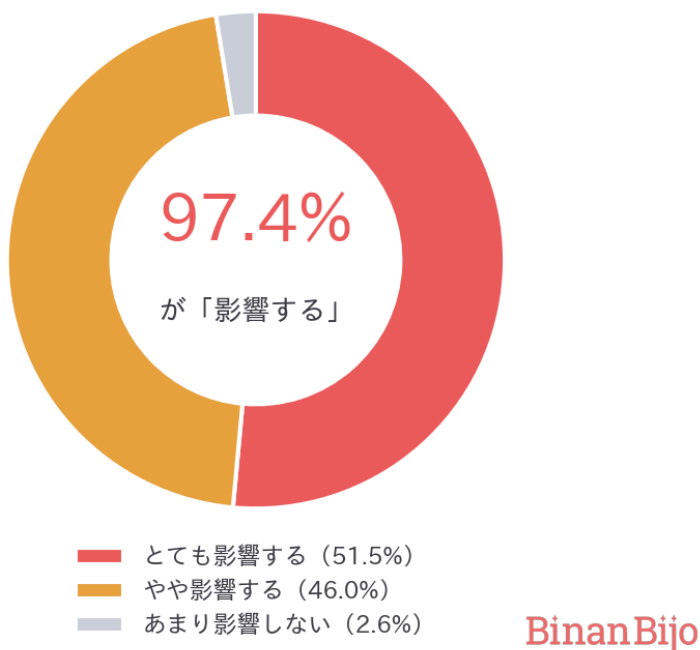
調査サマリー

- 97.4%が「第一印象は仕事に影響する」と回答(男女差ほぼなし)。
- 見た目では“得をした”71.3% > “損をした”46.3%。損は男性50.3% > 女性41.7%。
- 清潔感を下げる要素は「フケ・髪型」「無精ヒゲ」「歯の黄ばみ」。世代で減点ポイントが逆転(若年＝眉・肌 / 高年齢＝歯)。
- 美容医療は女性が“経験”先行、男性は“関心はあるが未行動”。受けたい施術1位はホワイトニング。
- 男性・60代は「関心はあるのに未経験」の潜在層。

1. 97.4%が「第一印象は仕事に影響する」

「第一印象や見た目は仕事の成果に影響するか」に対し、「とても影響する」51.5%、「やや影響する」46.0%で、合計97.4%が「影響する」と回答。男女とも約98%で差はなく、性別を問わず“見た目は仕事に効く”という認識が共通していました。

第一印象・見た目は仕事の成果に影響すると思うか

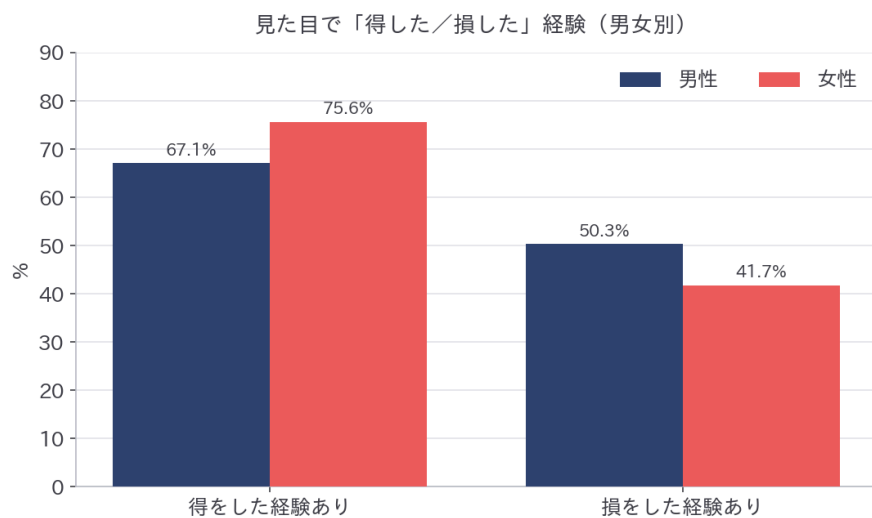


第一印象は仕事に影響すると思うか (BinanBijo調べ)

2. “得した”は7割、“損した”は男性が多い

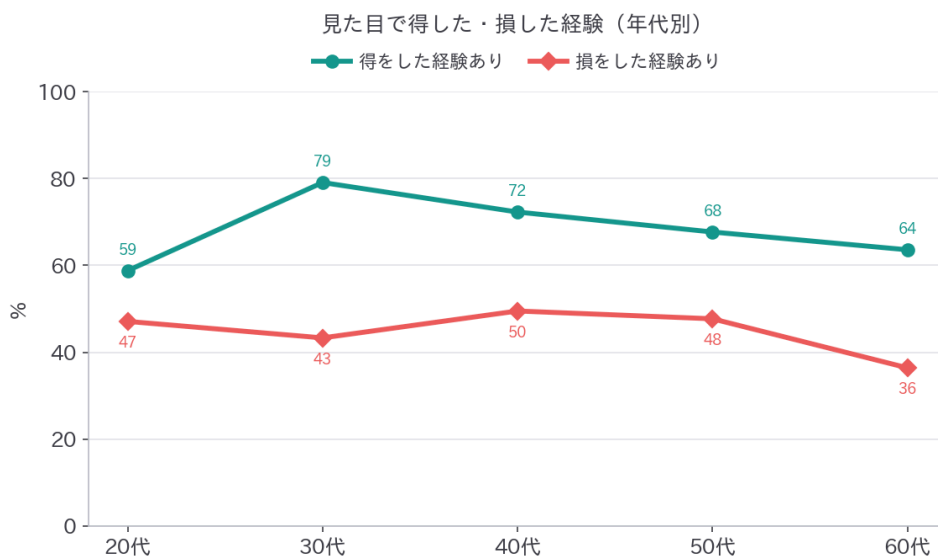
見た目ですら「得をした」経験は71.3%、「損をした」経験は46.3%と、ポジティブな実感が上回りました。得・損とも最も多い場面は「接客・クレーム対応」、次いで「商談・営業」で、第一印象が実利に直結しています。

男女差では「損をした」が男性50.3%>女性41.7%。年代別では「得をした」が20代59%と最も低く、30代で79%へ跳ね上がります。



BinanBijo

得した／損した経験（男女別）

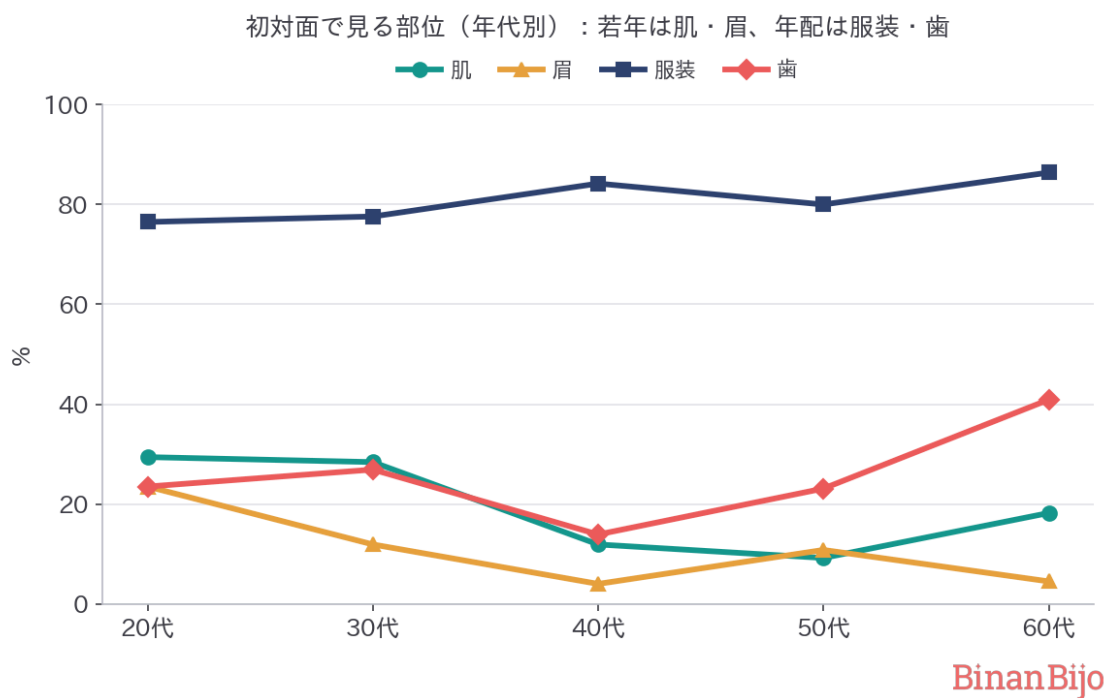


BinanBijo

得した／損した経験（年代別）

3. 「見られる部位」は世代で変わる

初対面で見られる部位は、全体では服装・全体(81.2%)、髪型(64.0%)、ヒゲ・口周り(37.5%)の順。年代で見ると、肌(20代29%→50代9%)や眉(20代24%→40代4%)は若年ほど高く、服装(76%→86%)や歯(60代41%が最多)は年配ほど重視されます。

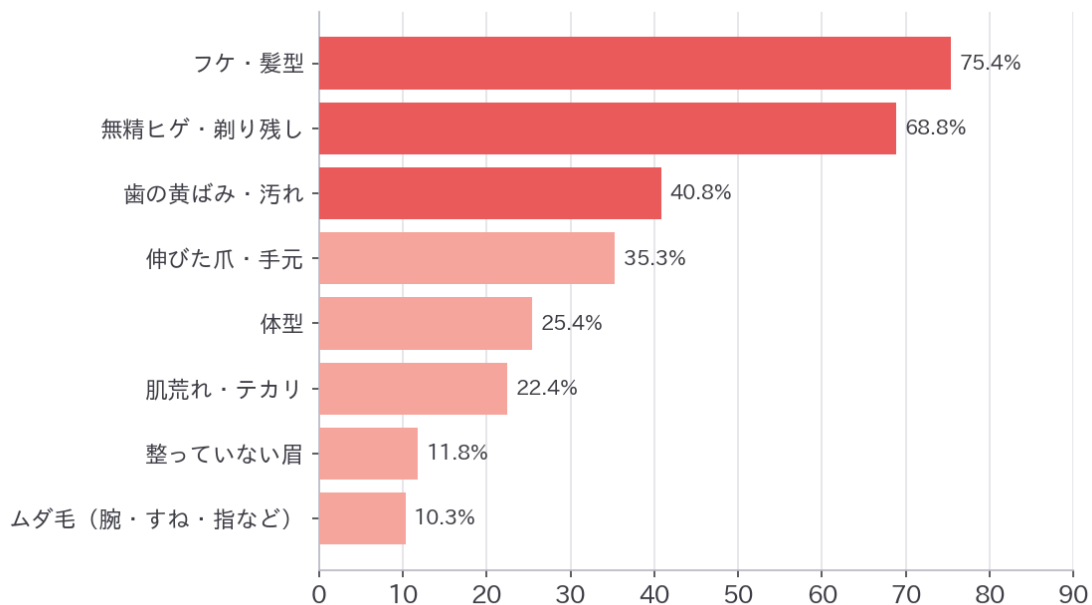


初対面で見える部位（年代別）

4. 清潔感の“減点ポイント”も世代で逆転

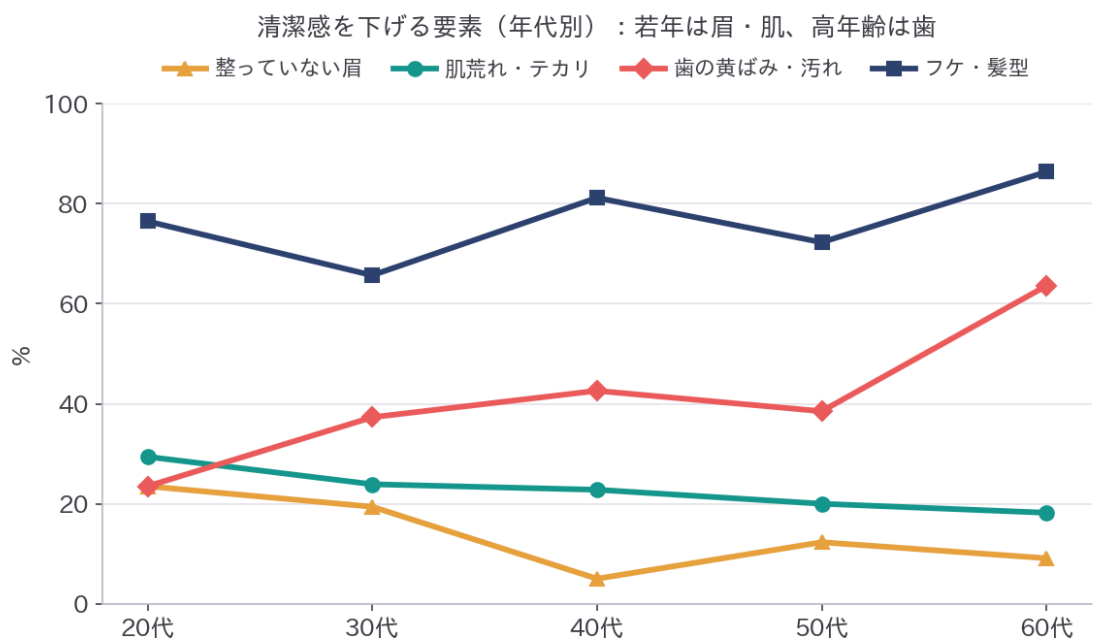
清潔感を下げる要素は「フケ・髪型」75.4%、「無精ヒゲ」68.8%、「歯の黄ばみ」40.8%が上位。世代別では、整っていない眉（20代24%→40代5%）や肌荒れ（20代29%→60代18%）は若年で高く、歯の黄ばみ（20代24%→60代64%）は高年齢で急上昇します。歯の黄ばみは女性46.5%＞男性36.4%と女性がシビアでした。

「清潔感がない」と感じる見た目の要素（複数回答）



BinanBijo

清潔感を下げる見た目の要素（全体）

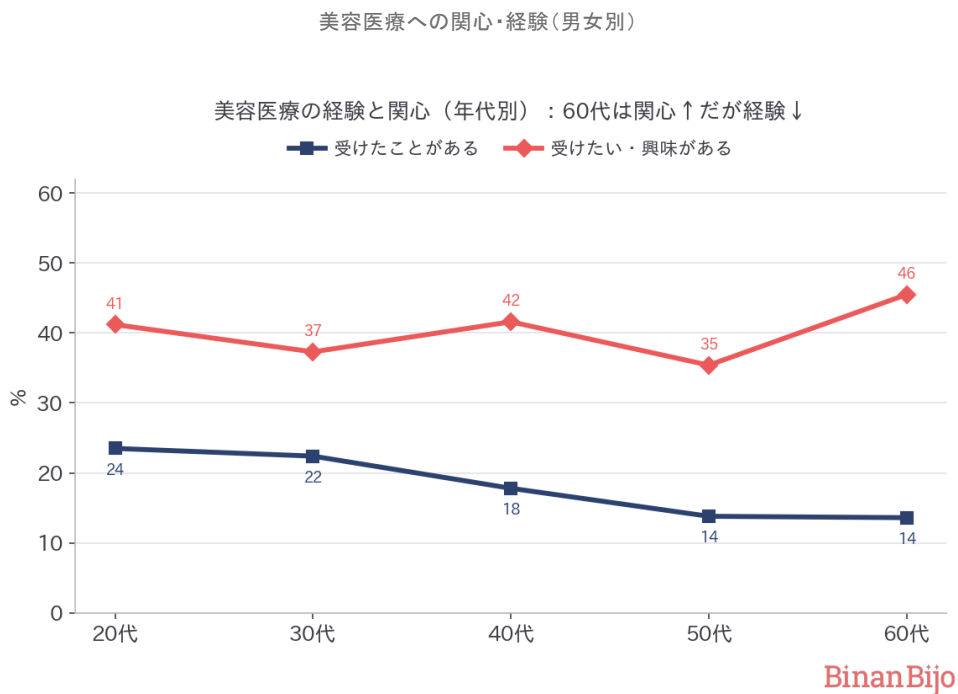
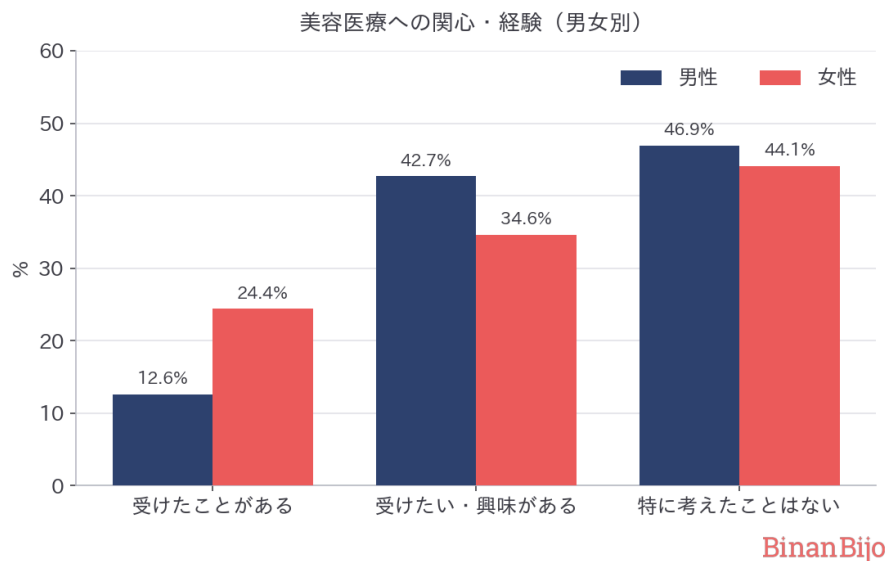


BinanBijo

清潔感を下げる要素（年代別）

5. 美容医療は「女性が経験」「男性は関心」

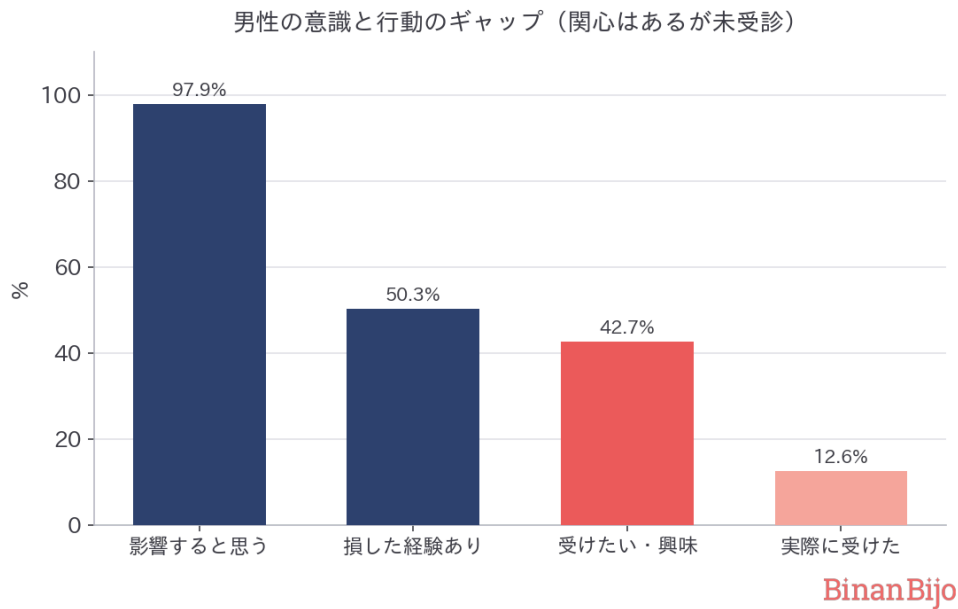
美容医療は「受けた」18.0%、「受けたい・興味」38.2%、「特に考えない」43.8%。実際に受けたのは女性24.4%・男性12.6%と女性が倍ですが、「受けたい・興味」は男性42.7%>女性34.6%と逆転します。年代別では、経験は若年ほど高く、関心(受けたい)は60代45%が最も高い一方、経験は14%どまりでした。



美容医療の経験と関心（年代別）

6. 男性の“意識と行動のギャップ”

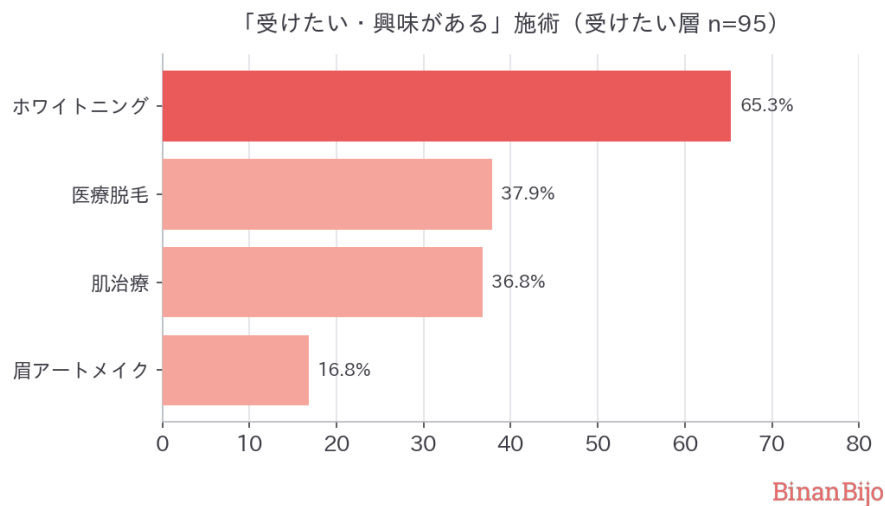
男性は「第一印象は影響する」97.9%、「損をした」50.3%、「受けたい・興味」42.7%と高い一方、実際に「受けた」のは12.6%どまり。影響を感じ、損も経験し、関心もあるのに行動していない——男性こそ、身だしなみ改善の“伸びしろ”が最も大きい層です。



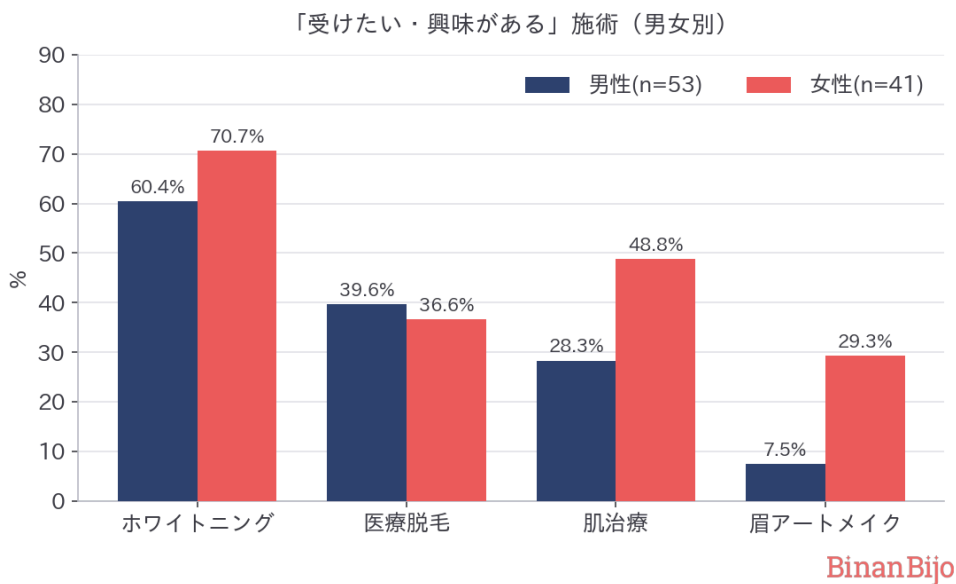
男性の意識と行動のギャップ

7. 「受けない」施術1位はホワイトニング

「受けない・興味がある」層では、ホワイトニング65.3%、医療脱毛37.9%、肌治療36.8%の順。男女別では、女性はホワイトニング71%・肌治療49%・眉29%と幅広く、男性は医療脱毛(ヒゲ)が中心。清潔感の判断で上位だった“歯”“ヒゲ”に対応する施術に関心が集まりました。



受けない・興味がある施術 (全体)



受けない施術 (男女別)

まとめ・考察

第一印象はほぼ全員に“仕事に影響する”と認識され、清潔感は「髪・ヒゲ・歯」で判断されていました。ただし“見られる部位”や“減点ポイント”は世代で逆転し、若年は眉・肌、高年齢は歯という違いが明確です。美容医療では女性が実行を先行させる一方、男性と60代は「関心はあるのに未経験」という共通の空白を抱えています。清潔感は生まれ持った容姿ではなく、日々のケアや選択肢のひとつである美容医療で整えられる要素であり、自分が“見られている”ポイントを知ることが第一印象を変える起点になりそうです。

調査データの引用・転載について

本調査結果を引用・転載いただく場合は、出典元として「BinanBijo (binanbijo.jp) 調べ」の明記と、下記ページへのリンクをお願いいたします。<https://binanbijo.jp/>

調査主体: BinanBijo (binanbijo.jp) / ウェブコロール株式会社 | 有効回答数: 272名 | 調査方法: インターネットアンケート | 構成比は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。20代 (n=17)・60代 (n=22) は小標本のため参考値。